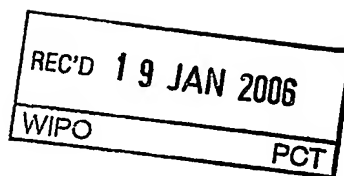


特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]



出願人又は代理人 の書類記号 TU04-0804WO1	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/014814	国際出願日 (日. 月. 年) 30. 09. 2004	優先日 (日. 月. 年) 10. 10. 2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. C08G18/66 (2006.01), C09D175/04 (2006.01), C09D175/06 (2006.01), C09D175/08 (2006.01), C09J175/04 (2006.01), C09J175/06 (2006.01), C09J175/08 (2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社 日 鋳 マ テ リ ア ル ズ		

<p>1. この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>3</u> ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input checked="" type="checkbox"/> 附属書類は全部で <u>5</u> ページである。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)</p> <p><input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)</p> <p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見</p>
--

国際予備審査の請求書を受理した日 31. 03. 2005	国際予備審査報告を作成した日 10. 01. 2006	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 松浦 新司	4 J 8314
電話番号 03-3581-1101 内線 3457		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2005 年 4 月)

第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条 (PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

- ☐ 出願時の国際出願書類
☒ 明細書
 第 _____ 1, 2, 4 ~ 11 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ 3, 3/1 _____ ページ*, 31. 3. 2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ _____ ページ*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
☒ 請求の範囲
 第 _____ 1 ~ 4 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ _____ 項*, PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 5 ~ 10 _____ 項*, 31. 3. 2005 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ _____ 項*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
☒ 図面
 第 _____ 1 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ _____ ページ/図*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ _____ ページ/図*, _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
☐ 配列表又は関連するテーブル
 配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1 ~ 10	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1 ~ 10	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1 ~ 10	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

請求の範囲あ 1 ~ 10 に係る発明は、国際調査報告書において引用されたいずれの文献においても記載されておらず、また、これらの文献に記載された事項から自明のものでもない。

(3) 上記 (B) ポリイソシアネートが、トルエンジイソシアネート (TDI)、ジフェニルメタン-4, 4'-ジイソシアネート (MDI)、ジフェニルメタン-2, 4'-ジイソシアネート、ヘキサメチレンジイソシアネート (HDI)、ビス(4-イソシアネートシクロヘキシル)メタン (H_{12} MDI)、イソホロンジイソシアネート (IPDI) またはそれらをオリゴマー化した誘導体であることを特徴とする上記 (1) 又は (2) 記載の樹脂組成物。

(4) 上記 (C) イミダゾール基を含有したシランカップリング剤が、分子中にヒドロキシル基を持つもの、あるいはその誘導体であることを特徴とする上記 (1) ~ (3) のいずれか一項に記載の樹脂組成物。

(5) 上記 (C) イミダゾール基を含有したシランカップリング剤が、イミダゾール化合物と 3-グリシドキシプロピルトリメトキシシランとの反応により得られた化合物であることを特徴とする上記 (1) ~ (4) のいずれか一項に記載の樹脂組成物。

(6) 上記 (1) ~ (5) のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたウレタン系塗料。

(7) 上記 (1) ~ (5) のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたフッ素系塗料。

(8) 上記 (1) ~ (5) のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたウレタン系接着剤。

(9) 上記 (1) ~ (5) のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたウレタンフォーム。

(10) 上記 (1) ~ (5) のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたエラストマー。

25 図面の簡単な説明

図 1 は、実施例 1 ~ 2、及び比較例 1 ~ 4 における塗装膜中のイソシアネート基残存率を FT-IR により測定したグラフである。

発明を実施するための最良の形態

以下本発明を説明する。

本発明に使用されるポリオールとしては、一般的に塗料や接着剤の分野で使用されているポリエーテルポリオール、ポリエステルポリオール、アクリルポリオール、またフッ素系塗料で使用されているフルオロエチレン含有ポリオール、更

請求の範囲

1. 以下の成分を必須成分としてなる樹脂組成物。
 - 5 (A) ポリオール
 - (B) ポリイソシアネート
 - (C) イミダゾール基を含有したシランカップリング剤(但し、上記組成物中、(B) のポリイソシアネート中のイソシアネート基数と(A) のポリオール中の水酸基数の比 (NCO/OH) が 0.6~4.0 であり、かつ { (A) + (B) } : (C) の重量比が 100 : 0.01~100 : 10 とする。)
- 10 2. 上記 (A) ポリオールが、ポリエステルポリオール、アクリルポリオール、ポリエーテルポリオール、またはフルオロエチレン含有ポリオールであることを特徴とする請求の範囲 1 記載の樹脂組成物。
- 15 3. 上記 (B) ポリイソシアネートが、トルエンジイソシアネート (TDI)、ジフェニルメタン-4, 4'-ジイソシアネート (MDI)、ジフェニルメタン-2, 4'-ジイソシアネート、ヘキサメチレンジイソシアネート (HDI)、ビス (4-イソシアネートシクロヘキシル) メタン (H_{12} MDI)、イソホロンジイソシアネート (IPDI) またはそれらをオリゴマー化した誘導体であることを特徴とする請求の範囲 1 又は 2 記載の樹脂組成物。
- 20 4. 上記 (C) イミダゾール基を含有したシランカップリング剤が、分子中にヒドロキシル基を持つもの、あるいはその誘導体であることを特徴とする請求の範囲 1~3 のいずれか一項に記載の樹脂組成物。
- 25 5. (補正後) 上記 (C) イミダゾール基を含有したシランカップリング剤が、イミダゾール化合物と 3-グリシドキシプロピルトリメトキシシランとの反応により得られた化合物であることを特徴とする上記 1~4 のいずれか一項に記載の樹脂組成物。
6. (補正後) 請求の範囲 1~5 のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたウレタン系塗料。

7. (補正後) 請求の範囲 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたフッ素系塗料。

8. (補正後) 請求の範囲 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたウレタン系接着剤。

9. (補正後) 請求の範囲 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたウレタンフォーム。

10. (追加) 請求の範囲 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の樹脂組成物を有効成分としたエラストマー。